

コンテナ苗の活用に向けた取り組み ～ 植付用器具の改良 ～



網走南部森林管理署

業務グループ 森林整備官

村田 彰寛

一般職員

村辺 寿宏

○ 取り組みの背景と経緯について

近年、人工林の成熟化に伴う再造林対策等として、コンテナ苗による造林が急速に増加してきているところです。

コンテナ苗については、根鉢が土で覆われているため形状が均一で活着が良いなどの利点がある一方で、苗木コストが高く植付工程の向上が課題の一つとなっています。

○ 実施内容と成果、今後に向けて

当署においては、現地検討会の実施や関係者へのアンケート調査の結果を参考に関係機関等と連携して植付用器具の改良に取り組みました。

その結果、改良した植付用器具と既存の器具を比較すると、植付工程において作業時間を最大で30%以上短縮することができました。

現段階では苗木コストが高く、植付工程の一層の向上が必要なことから、さらに様々な条件下における現場での検証を積み重ね、植付工程の向上に取り組んでいきたいと考えています。



～Memo～
